

1. 目的

世界に先駆けて超高齢社会を経験し、その健康課題に先進的に取り組んできた島根県においては、超高齢社会における健康課題の解明とその看護に焦点を当てた研究による看護方法の開発や知の構築を行っていく必要がある。

今後、さらに複雑さを増すことが予測される超高齢・長寿社会における健康問題に適切に対応して、人々の健康生活を支えるためには、これまで提唱されてきた加齢の諸理論や、培ってきた高齢看護学の知識・方法等をさらに発展させて、新たな知識と方法の集積による理論の体系化、すなわち「超高齢看護学」を構築することが急務である。

看護学専攻博士後期課程は、超高齢看護学の理論体系化に資する水準の独創的な看護学研究を自立して実施し、超高齢看護学の発展に寄与することを目的とする。

2. 目標

「超高齢看護学」を構築するための高水準で独創的な看護学研究を自立して実施し、看護の質向上に貢献することによって、人々が豊かな人生を享受できる超高齢社会の実現に寄与することのできる教育研究者を養成する。

3. ディプロマ・ポリシー

・人材育成目標（社会における顕在・潜在ニーズ、修了生が身につけるべき資質・能力）・学位授与の方針

医学系研究科看護学専攻では、博士後期課程において以下に掲げる資質・能力を身につけた者に博士（看護学）を授与します。「超高齢看護学」を構築するための高水準で独創的な看護学研究を自立して実施し、看護の質向上に貢献することによって、人々が豊かな人生を享受できる超高齢社会の実現に寄与することのできる教育研究者を養成します。

・目標としての学修成果（学修成果として身につく具体的な資質・能力の項目）

3年以上在学し、所定の単位を取得し、かつ、研究指導を受けて博士論文を提出し、その審査に合格することにより、博士（看護学）の学位を授与します。そのために、以下の学修成果を求めます。

1. 国内外の文献分析や保健・医療機関等でのフィールドワークをとおして、超高齢看護学の構築に資する研究課題を展望できる。
2. フィールドのケア対象者や実践者、異分野の研究者等と連携・協働して超高齢看護学の理論体系化に資する水準の研究を自立して企画・立案・遂行できる研究マネジメント能力が培われている。
3. 超高齢看護学としての学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有する博士論文を作成できる。
4. 博士論文の研究成果を国内外の看護系学会等で発表し、発信するために必要なプレゼンテーション力、英語力が身についている。
5. 博士後期課程修了後のキャリア・ビジョンとして、大学等の教育研究機関及び保健・医療の現場で、看護学の教育・研究をリードしていくことを明確に描けている。